



タイトル「**2021年度危機管理学部(公開用_コロナ対策版)**」、フォルダ「**実務経験のある教員による科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT3557		
科目名	防衛政策		
担当教員	吉富 望		
対象学年	3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	火 2		
講義室	オンライン	単位区分	選
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門科目		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・危機管理		
科目の位置付け（開発能力）	■DPコード 学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 DP 1 – E [学識・専門技能] 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。 DP 4 – I [理解力・分析力] 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 ■CRコード 学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（CR）との関連 E1 学識と専門技能（50%） I1 理解・分析と読解（25%） I3 情報分析（25%）		
教員の実務経験	■経験した実務の内容 陸上自衛隊に32年間勤務し、この間、第一線部隊において部隊運用に関わる実務に約11年間従事しました。また、内閣官房内閣情報調査室、防衛省防衛局、防衛省情報本部、陸上幕僚監部といった中央機関で防衛力整備、部隊運用、戦略情報に関わる実務に約11年間従事しました。加えて、防衛大学校、陸上自衛隊研究本部、陸上自衛隊小平学校などで教育及び研究開発の実務に約10年間従事しました。 ■実務経験をどのように活かした授業にするか 授業では、防衛政策に関する基本的な学識・専門技能の習得を図りますが、最新の防衛に関わる環境及び防衛政策と実務とのギャップ（政策上の課題）についても実務経験に基づいて分かりやすく教育します。このことで、生きた学識・専門技能を習得するとともに、日本の置かれた防衛上の状況をより正確に把握し、氾濫する防衛関連の情報を適切に分析する力を高めま す。【第2回、第3回、第4回、第5回、第6回、第7回、第8回、第10回、第11回、第12回、第13回、第14回】		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	現代の日本を取り巻く国際環境を踏まえて、日本の領土、領海、領空を守り、国民の生命と生活を守るために日本がとるべき防衛政策のあり方について考察し、防衛政策に関する総合的な理解を深めることを目標とします。具体的には、戦後の防衛政策の歩みを踏まえたうえで、現在表面化している尖閣諸島などの領土的挑戦への対応、サイバー・電磁波・宇宙などの新たな領域での対応、各種緊急事態への対応などを考察しながら、現在の防衛政策が抱える課題を考察します。また、日米安全保障条約に基づく日米協力のあり方や自衛隊の国際平和協力について、更には民主主義国家におけるシビリアンコントロールの問題を検討します。授業形態は講義により行います。なお、授業の一部を補完するため、あるいは代替するためにオンライン授業（オンデマンド型）を取り入れる場合があります。 ■キーワード 憲法、日米安保体制、自衛隊		

授業の趣旨	■副題 日本を取り巻く国際環境が厳しさを増す中、益々重要になる防衛政策を見る目を養いましょう。 ■授業の目的 戦後の日本の防衛政策の変遷を把握するとともに、今後の日本が直面する防衛に関わる環境や事態等を踏まえて日本がとるべき防衛政策について考察し、防衛問題に関する総合的な理解を深めることを目的とします。 ■授業のポイント 防衛政策は国の存立を左右する政策であり、失敗することが許されない政策です。また、国の防衛が危うくなれば、その他の分野の危機管理も全て危うくなります。つまり、防衛政策は日本の危機管理の基盤となる重要な政策です。このため、責任感を持って防衛政策を考える際には、思想・信条、固定概念、感情などに左右されず、多様な情報と知識に基づいて論理的に考える必要があります。 このため、2冊の教科書を使って異なる視点から太平洋戦争終結後の防衛政策の変遷や課題を学びますが、この際に教科書の記述をうのみにすることなく、批判的な姿勢を持って納得できない記述を見出すよう促します。また、自衛官として32年間の実務経験を有する担当教員が、教科書に書かれていない視点や知識を提供します。 こうした学修を通じて得られた多様な視点や知識を基礎として今後の防衛政策を考えることで、危機管理担当者として不可欠の「将来のリスクを幅広く考える姿勢」を涵養することができます。	
総合到達目標	■一般総合目標（GIO） 日本の危機管理の基礎となる防衛政策に関する学識・専門技能を高めるために、日本の防衛政策の歴史的な変遷、ならびに日本の今後の防衛政策のあり方について説明できる能力を修得する。また、理解・分析力を高めるために日々の安全保障・防衛に関する情報を、修得した学識・専門技能を用いて解釈する態度を身につける。 ■個別行動目標（SBOs） SBO1 太平洋戦争終結から冷戦終結までの自国防衛に特化した防衛政策について説明できる。（第3～5回） SBO2 冷戦終結から世界的な対テロ戦争までの安全保障環境の改善を重視した防衛政策について説明できる。（第6、第10、第11回） SBO3 世界的な対テロ戦争以降の自国防衛に回帰した防衛政策について説明できる。（第7、第12、第13回） SBO4 今後の日本の防衛政策のあり方について意見を述べることができる。（第8、第14回） SBO5 日々の安全保障・防衛関係の報道に関する意見を述べることができる（第2～第8回、第10回～第14回）	
成績評価方法	■リアクションペーパー12回（40％）：適用ルーブリック E 1 （評価の観点）授業の内容を正しく理解しているかを問います。 （フィードバック方法）次回の授業時に解説します。 ■レポート12回（20％）：適用ルーブリック I 1・I 3 （評価の観点）教科書の該当章の内容を正確かつ適切に要約するとともに、内容に対する自分の意見を述べているかを問います。 （フィードバック方法）次回の授業の中で解説します。 ■授業内テスト2回（30％）：適用ルーブリック E 1 （評価の観点）授業内容及びリアクションペーパーの内容を問うことで当該単元の理解度を評価します。 （フィードバック方法）次回の授業時に解説します。 ■授業参加度（発言等）15回（10％）：適用ルーブリック E 1 （評価の観点）対面又はメールで積極的に質問やコメントを述べているかで評価します。 （フィードバック方法）その場で質問やコメントに回答します。	
履修条件	日本の防衛政策について考ぶ意欲のある学生に受講してもらいたいと考えています。また、安全保障論1（国家安全保障）、安全保障論2（国家安全保障）及び防衛法制の内、一つ以上を受講済であることが望ましいと考えています。	
履修上の注意点	防衛政策を学ぶ上で最新の国際情勢を幅広く知ることは大変重要です。新聞やネットニュースを読む習慣をつけましょう。	
授業内容	回	内容
	1	① 授業テーマ 導入教育 ② 授業概要 （1）授業の概要説明 - 授業の進め方の説明（予習：教科書購読 + レポート作成 ⇒ 授業 ⇒ リアクションペーパー ⇒ 復習 ⇒ 授業内テスト） - フィードバック方法の説明

	・ レポートの書き方の説明 ・ 成績評価方法の説明（授業参加度、リアクションペーパー、レポート、授業内テスト） (2) 導入教育 ・ 防衛政策と憲法解釈に関して説明できるようになる。(E1) ・ 安全保障、防衛及び国防の関係に関して説明できるようになる。(E1) ③ 予習（160分） 憲法と防衛政策との関係について調べておくこと。 ④ 復習（80分） 教育の内容を確認すること。
2	① 授業テーマ 自衛隊を見る四つの視点 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、教科書に記された四つの視点について論じる。 (2) 自衛隊を見る視点に関して意見を言えるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習（160分） (1) 教科書(1)の「はじめに」を読む。 (2) 教科書(1)の「はじめに」を読んでレポート（A4用紙1枚）を作成する。レポートの内容は次の二点：①「はじめに」の要点整理、②「はじめに」を読んで感じたこと ④ 復習（80分） 教科書(1)の「はじめに」を読み返しつつ教育の内容を確認する。
3	① 授業テーマ 「再軍備」への道－防衛政策の形成 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、防衛政策形成時の問題点が現在の防衛政策に与えている影響について論じる。 (2) 警察予備隊と自衛隊、戦後防衛体制形成期の問題点に関して説明できるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習（160分） (1) 教科書(1)の第1章を読む。 (2) 教科書(1)の第1章を読んでレポート（A4用紙1枚）を作成する。レポートの内容は次の二点：①第1章の要点整理、②第1章を読んで感じたこと ④ 復習（80分） 教科書(1)の第1章を読み返しつつ教育の内容を確認する。
4	① 授業テーマ 55年体制下－防衛論の分裂と高揚 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、55年体制が防衛政策に与えた影響について論じる。 (2) 日米安保条約の改定、戦後平和主義、年次防、「中曽根構想」に関して説明できるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習（160分） (1) 教科書(1)の第2章を読む。 (2) 教科書(1)の第2章を読んでレポート（A4用紙1枚）を作成する。レポートの内容は次の二点：①第2章の要点整理、②第2章を読んで感じたこと ④ 復習（80分） 教科書(1)の第2章を読み返しつつ教育の内容を確認する。
5	① 授業テーマ 新冷戦時代－防衛政策の変容 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、冷戦期の防衛政策が自衛隊に与えた影響について論じる。 (2) 防衛計画の大綱、日米ガイドライン、総合安全保障、日米同盟路線の強化に関して説明できるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習（160分） (1) 教科書(1)の第3章を読む。 (2) 教科書(1)の第3章を読んでレポート（A4用紙1枚）を作成する。レポートの内容は次の二点：①第3章の要点整理、②第3章を読んで感じたこと ④ 復習（80分） 教科書(1)の第3章を読み返しつつ教育の内容を確認する。

6	① 授業テーマ 冷戦終結－激動する内外情勢への対応 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、冷戦終結後の防衛政策が自衛隊に与えた影響について論じる。 (2) 冷戦終了後の新たな課題、震災とテロ（危機管理の欠落）に関して説明できるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習（160分） (1) 教科書(1)の第4章を読む。 (2) 教科書(1)の第4章を読んでレポート（A4用紙1枚）を作成する。レポートの内容は次の二点：①第4章の要点整理、②第4章を読んで感じたこと ④ 復習（80分） 教科書(1)の第4章を読み返しつつ教育の内容を確認する。
7	① 授業テーマ 「新しい脅威」の時代－日米同盟・防衛政策の転換点 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、新たな脅威に対応するための防衛政策が自衛隊に与えた影響について論じる。 (2) 新しい脅威と日本の防衛政策、変化する防衛政策、安全保障政策の転換に関して説明できるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習（160分） (1) 教科書(1)の第5章を読む。 (2) 教科書(1)の第5章を読んでレポート（A4用紙1枚）を作成する。レポートの内容は次の二点：①第5章の要点整理、②第5章を読んで感じたこと ④ 復習（80分） 教科書(1)の第5章を読み返しつつ教育の内容を確認する。
8	① 授業テーマ 新たな安全保障体制に向けて ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、新たな時代の防衛政策について論じる。 (2) 新たな安全保障体制に関して意見を言えるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習（160分） (1) 教科書(1)の第6章を読む。 (2) 教科書(1)の第6章を読んでレポート（A4用紙1枚）を作成する。レポートの内容は次の二点：①第6章の要点整理、②第6章を読んで感じたこと ④ 復習（80分） 教科書(1)の第6章を読み返しつつ教育の内容を確認する。
9	① 授業テーマ 授業内テスト ② 授業概要 (1) 授業内テスト：講義及び教科書(1)の読解を通じて得た学識を記述式のテストによって確認する。(E1) (2) 後半の講義に関する説明 ③ 予習（160分） 前半の授業内容及びリアクションペーパーを再確認してテストに備える。 ④ 復習（80分） テストを振り返り、理解不足であった点を補う。
10	① 授業テーマ 危機になす術なし－1990年代の現実 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、湾岸戦争時の対応について論じる。 (2) 湾岸戦争、一国平和主義、国際協力活動に関して説明できるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習（160分） (1) 教科書(2)の第1章を読む。 (2) 教科書(2)の第1章を読んでレポート（A4用紙1枚）を作成する。レポートの内容は次の二点：①第1章の要点整理、②もし、あなたが1990年8月2日に日本の首相だったら、湾岸危機にどう対応しましたか ④ 復習（80分） 教科書(2)の第1章を読み返しつつ教育の内容を確認する。
11	① 授業テーマ 激変する安保情勢と日本の無策－90年代の危うい日米関係 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、日米同盟について論じる。 (2) 日米同盟、朝鮮半島危機、冷戦後の防衛政策に関して説明できるようになる。

		(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習 (160分) (1) 教科書(2)の第2章を読む。 (2) 教科書(2)の第2章を読んでレポート(A4用紙1枚)を作成する。レポートの内容は次の二点：①第2章の要点整理、②もし、あなたが1994年5月に日本の首相だったら緊迫する朝鮮半島情勢にどう対応しましたか ④ 復習 (80分) 教科書(2)の第2章を読み返しつつ教育の内容を確認する。
12		① 授業テーマ 迫る危機、追われる日本－2000年代の日本の現実 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、9.11テロ後の対応について論じる。 (2) 有事法制、9.11テロ、北朝鮮の核・ミサイル、中国の台頭に関して説明できるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習 (160分) (1) 教科書(2)の第3章を読む。 (2) 教科書(2)の第3章を読んでレポート(A4用紙1枚)を作成する。レポートの内容は次の二点：①第3章の要点整理、②もし、あなたが2001年9月11日に日本の首相だったら米国同時多発テロにどう対応しましたか ④ 復習 (80分) 教科書(2)の第3章を読み返しつつ教育の内容を確認する。
13		① 授業テーマ 危機の壁－問題山積の2010年代 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、尖閣諸島に関わる対応について論じる。 (2) 核の脅威、東シナ海情勢、日米同盟の行方に関して説明できるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習 (160分) (1) 教科書(2)の第4章を読む。 (2) 教科書(2)の第4章を読んでレポート(A4用紙1枚)を作成する。レポートの内容は次の二点：①第4章の要点整理、②もし、あなたが今、日本の首相だったら尖閣諸島への領土的挑戦にどう対応しますか ④ 復習 (80分) 教科書(2)の第4章を読み返しつつ教育の内容を確認する。
14		① 授業テーマ これからの安全保障 ② 授業概要 (1) 担当教員の実務経験を踏まえて、今後の防衛政策について論じる。 (2) 南西諸島の情勢、トランプ大統領と日米同盟、日本の針路に関して意見を言えるようになる。(E1) (3) レポートに対するフィードバックについては、次回の授業内で解説する。 ③ 予習 (160分) (1) 教科書(2)の終章を読む。 (2) 教科書(2)の終章を読んでレポート(A4用紙1枚)を作成する。レポートの内容は次の二点：①終章の要点整理、②あなたが考える今後の防衛政策のあるべき姿とは ④ 復習 (80分) 教科書(2)の終章を読み返しつつ教育の内容を確認する。
15		① 授業テーマ 授業内テスト及びまとめ ② 授業概要 (1) 授業内テスト：講義及び教科書(2)の読解を通じて得た学識及び考察結果を記述式のテストによって確認する(E1) (2) まとめ：教科書(1)及び(2)の内容を振り返り、戦後の防衛政策の変遷を概観する(E1、I1、I3) ③ 予習 (160分) (1) 1990年代以降の日本の防衛政策の変遷を記述できるように準備すること。 (2) 今後の日本の防衛政策のあり方について記述できるように準備すること。 ④ 復習 (80分) 1990年代以降の日本の防衛政策の変遷を再確認する。
関連科目	「安全保障論 1 (国際安全保障) (RMGT3551)」、「安全保障論 2 (国家安全保障) (RMGT3554)」、「ストラテジー (RMGT3555)」は本講と密接に関連します。	
教科書	下記の二つの教科書を使用しますので、事前に購入してください。 ■佐道明広「自衛隊史 防衛政策の七十年」ちくま書房、2015年11月10日	

	■勝股秀通「検証 危機の25年」並木書房、2017年2月20日
参考書・参考URL	■佐藤正久「高校生にも読んでほしい安全保障の授業」ワニブックス、2015年8月25日 ■添谷芳秀「安全保障を問いなおす 「九条－安保体制」を超えて」NHK出版、2016年4月25日 ■細谷雄一「安保論争」ちくま新書、2016年7月10日 ■鈴木和之「日本の安全保障法制入門」内外出版、2015年12月23日 ■防衛省「令和 2 年版防衛白書」日経印刷株式会社、2020年8月31日
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 火曜日 3 限。それ以外の時間については研究室で対応します。なお、研究室に不在の場合もあるので、事前にメール等でアポイントメントを取ることをお勧めします。
研究比率	■危機管理領域との対応 グローバルセキュリティ90%：パブリックセキュリティ5%：災害マネジメント0%：情報セキュリティ：5% ■危機管理と法学とのバランス 危機管理学95%：法学5%

